

令和2年度 大阪府立鳳高等学校第2回学校運営協議会 議事録

新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が発令されているため、文書による意見聴取を行った。
令和3年2月15日の提出期限までに、5人の委員よりご意見をいただいた。

資料1 令和2年度学校経営計画進捗状況について

蒲生会長	<p>①コロナ禍のもと、全体として多くの評価項目で昨年度より改善されています。この結果は多くの制約の中で工夫され奮闘された教職員の努力の賜物だと思います。新型コロナウイルス収束までもう少しです。引き続き頑張ってください。期待しています。</p> <p>②4「学校力の向上と効率的な学校運営」など、いくつかの項目で今年度のICT化（オンライン化など）、教育の効率化など平常時でも改善すべき（取り入れるべき）取り組みを早期に実行された効果が表れ改善されたものと思われます。</p> <p>③進捗状況欄の総合評価の項目で、割合（％）のベースとなる数値が件数（遅刻者数など）になっているものがありますが、授業日数や登校機会も異なることから割合（登校機会数で割る）評価が望ましいと思われます。</p>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによる厳しい状況下にあって、おおむねすべての項目で数値の向上が見られることは素晴らしい。細目についての課題も分析されており、今後の学校の取り組みに期待される。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> 各項目ともに、全体的に見て、当初の目標を達成できているものと思います。むしろ、新型コロナウイルス感染症対策で忙殺された中で、先生方の献身的に取り組んでいただいたことをありがたく感じました。 ホームページのリニューアルが功を奏して、広報活動の充実が図られたことは、PTAとして感謝しています。
甲斐委員	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの数値がアップ（改善）しているのは素晴らしいことだと思います。 その中で講習参加状況が下がっているのは新型コロナウイルスの影響でしょうか。 ⇒休業が短くなったのが要因
大槻委員	<p>行事への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策で学校行事も制限されるなか、参加8%上昇は学校の努力が伺える。生徒にとって印象深い等見立てもあったので、生徒へのアンケートや感想などがあれば是非伺いたい。 <p>教員ICT</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教員が活用できた事は、非常に重要であると感じます。 課題や効果について全員で共有が図られる。 その上で、今後、得意な教員の活用などトップを切って走る、ICT活用授業委員会への学校としての支援、専門化活用、他校との交流などがキーになってくると思います。

資料2 観点別学習状況の評価について

蒲生会長	<p>①チャレンジブルな取り組み、および本資料2を作成された教職員の方に謝意と大きな評価を表したい。良くまとまっていると同時に多くの苦労がにじみ出ています。</p>
------	------------------------------------------------------------------------------------

	<p>②2か所の中学校の授業を見学され、会議をもたれていますが同様の評価を行っている大学や小学校高学年は参考にしなくても良いのでしょうか。むしろ中学より大学での取組みが参考になるのではないかと思います。最終行に記載された「生徒一人ひとりの進路希望の実現につながる・・・」と感じるからです。単位制高校ならなおさらです。</p> <p>③「観点別・・・」に関し、なぜ観点は「思考・判断・表現」なのでしょう。一般の社会人基礎力は「学校経営計画」の中期的目標にあるように「アクション（主体性・実行力など）・シンキング（課題発見力・計画力・創造力）・チームワーク（発信力・傾聴力・規律性・状況判断力・ストレスコントロール力など）」ですね。観点を全教科「思考・判断・表現」に決定した経緯をお教えてください。</p> <p><事務局回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省通知により、観点別学習状況の評価における観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3点とすることが示されています。 ・今回の取組において「思考・判断・表現」を取り上げたのは、3つの観点の中で、現在の評価方法と比較した場合、最も評価方法が確立していないと考えたためです。 <p>④個々人の成績評価において「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価割合（ウエイト）はどうしていますか。</p> <p><事務局回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府教育庁からの通知により、学期末や学年末に行う総括的な評価においては、3つの観点が同等であることが示されています。ただし、単元により、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点での評価に重み付けをすることは可能です。 <p>⑤大学などへの内申書ではこの「観点別学習状況の評価」はどう記載される予定ですか。</p> <p><事務局回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書の様式や記載内容につきましては、文部科学省が大学入学者選抜実施要項の中で示しますが、現時点ではまだ具体的な内容は提示されていません。 <p>⑥現状においても『思考・判断・表現』の観点は取り入れられていることが確認できた（2頁C）は同感です。特に思考力・判断力は問題の出し方にも依存しますが、今までの多くの考査には間接的に含まれていると思われます。</p> <p>⑦「同じ生徒の評価が教職員によって差異がある」との点ですが、大学での音楽実技演奏などでは試験演奏時に同時に複数（3～4名）の教員が観察・傾聴し採点し、平均点ないしは予め決められたウエイト付けをして機械的に点を出しています。公平性・公明正大性の観点から有効だと思います。</p>
中村委員	<p>・「観点別学習状況の評価」施行に向けての資料を大変興味深く拝見した。どの学校より早く取り組まれる姿勢は素晴らしいと思う。資料の指摘にあるように、観点別評価については、評価基準・評価方法の客観性をどのように担保するのかについては今後の課題である。私も具象的イメージが浮かんでこないが、それは観点別評価を何のために行うのかという目的や目標が抽象的であり、現状では明確に定まっていないからだと思われる。</p>

鈴木委員	・試行錯誤の繰り返しながら、他校の事例を参考に、評価制度の効率的運用に取り組まれることを期待したいと思います。
甲斐委員	・本格実施にあたり、かなりの準備が必要なのがわかった。 ・今回の試行で、ある程度、課題が整理されたようですので、教職員側のスキルアップも含めてチャレンジしてってください。
大槻委員	・5つの課題は多くの学校でも同様であると思います。成果と課題も拝見する中で、中学校もそうですし今さらですが、教科横断的な教科の壁を打ち破る意識が重要と思います。

資料3 新型コロナウイルス感染症への対応について

蒲生会長	<p>①4月8日から5月31日まで約2か月間休業されていますが、この間の遅れはどのように取り戻されましたか。例年と比較して授業の質保証にどのような工夫をされたかお教えてください。</p> <p><事務局回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府教育庁からの通知により、臨時休業を実施しない場合と同じ授業日数を確保することが示されました。それにより、夏季休業及び冬季休業期間を短縮するとともに、土曜日にも6回授業日を設定して、例年通りの授業日数を確保しました。 <p>②6月1日以降、教育活動を再開されています。1教室20人とのことですが、具体的な対応方法は時差授業でしょうか、講堂など他の部屋を確保されたのでしょうか。</p> <p><事務局回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月中旬まで分散登校を実施しました。クラスを出席番号が奇数のグループと偶数のグループに分け、午前登校の日と午後登校の日を交互に設定しました。教室は、奇数の生徒と偶数の生徒とが自分の出席番号の席に着席することにより、生徒同士の間隔を確保するとともに、同じ席を複数の生徒が使用しないようにしました。 <p>③臨時休業中、および現在の緊急事態宣言中の教職員の勤務についてはどうされていますか。時短勤務やテレワーク等についてお教えてください。</p> <p><事務局回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月中旬以降、テレワークの実施が可能となりました。臨時休業期間中にテレワークを行う教員はいましたが、5月に緊急事態宣言が解除され、生徒の登校日が始まってからは、ほとんどテレワークの取得がないというのが実態です。また、時短勤務については、新型コロナウイルス感染症に関する制度がなく、実施していません。保育所が休業することにより、その保護者である教員が子どもを世話しなければならない場合は、職務専念義務を免除することが可能です。
中村委員	・新型コロナウイルスの対応については承知しました。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府における感染症対策に基づき、学校が一丸となって防止対策を徹底されたことで、クラスターの発生が生じることが無かったことは評価したいと思います。 ・生徒にとって楽しみにしていたところでもあり、学校行事の一部で中止となったことは残念ですが、やむを得ない措置だと考えます。

甲斐委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症への対応については、どれだけ予防策を徹底できるかが最大のポイントになります。 ・また、最近では家庭内感染も増えていますので、家庭内での防止対策の徹底も重要になります。
大槻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ明らかになってきた対策について共有化を進めることが重要と思います

資料4 オンライン学習の取組みについて

蒲生会長	<p>①教職員研修は着実に実効的に実施されたようです。とても評価しています。</p> <p>②Wi-Fi環境の整備、動画撮影用機材、生徒へのタブレットPCの配備の3点について、いつの日時まで、どの予算を充当して実施される予定でしょうか。</p> <p><事務局回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi環境の整備は国のGIGAスクール構想による予算、生徒用タブレットPCの配備は府の予算、動画撮影用機材は国の新型コロナウイルス感染症対応の予算となっています。 <p>③臨時休業中の教育は、ICTすなわち、同時双方向型授業かオンデマンド配信型授業のどちらを主として実施されたのでしょうか。それとも教材郵送のみでしょうか。オンデマンド型は生徒がいつでも授業に参加できますが、一方でサボってしまう傾向があり懸念されます。</p> <p><事務局回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業中のICT活用については、ほぼオンデマンド配信です。現在は、同時双方向型の授業が行えるよう、研究を進めているところです。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・6月以降は、新型コロナ感染の事態以外は、基本的に学校の授業を休講せずに行っているため、現状は生徒の学びには問題はないと思う。しかし、さらにパンデミックが起これば、長期休校する場合に備えて、Zoomなどによるオンラインの双方向授業を実施できる体制を用意する方がよいだろう。時代は明らかに、オンラインによる会議、講演、授業などに慣れてきており、生活スタイルも変化するだろう。不登校生でも授業の同時オンライン配信で出席可能となり、生徒・家庭・学校の心理的負担も減るように思う。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間で、先生方が様々な対応をいただき、学習進度に大きな影響が生じなかったことに敬意を表します。
甲斐委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナにおいて、元に戻るもの元に戻らないものと分けて考えると、オンライン学習は、テレワーク同様に今後も重要になってくるものと思います。全体の流れとしては元に戻らずに、これからも進めていかなければならない施策になりますので、コロナが収束に向かってもスピードをゆるめず、進めてください。
大槻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまでも文房具の一つとしてのとらえの元に教員への負担感、使わなければならないだけでなく、こんな使い方って面白いなあ、子どもと同じで先生方も興味関心が大切ととらえています。